

平成24年度 第3回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～ 古谷地区 ～



日時：平成24年5月22日（火）  
午後7時00分～8時30分  
場所：古谷公民館

## 参加者

自治会連合会古谷支会、民生児童委員協議会、交通安全母の会、成美会、川越市消防団古谷分団、古谷小校区子ども会育成連絡協議会、古谷小学校PTA、子どもサポート委員会、東中学校PTAの皆さん 29名

## 出席者

市長、政策財政部長、総務部長、市民部長、福祉部長、建設部長、学校教育部長

## 意見数

分類	件数	内容	頁
保健・医療・福祉	2	介護問題	2
		地域福祉	15
教育・文化・スポーツ	3	図書館の設置	6
		旧古谷東小学校の地元開放	8
		命についての教育	12
都市基盤・生活基盤	7	通学路の歩道整備	6
		南古谷駅の北口開設	6
		水道水の安全性	8
		伊佐沼東側道路の歩道整備	9
		伊佐沼公園	9
		伊佐沼の護岸	9
		通学路の安全対策	11
地域社会と市民生活	8	防災	2
		水害時の避難所	4
		夏休みに子どもが集まれる施設	5
		新斎場	12
		総合防災訓練	16
		災害備蓄庫	17
		備蓄品の点検	17
		地域の防災訓練	17
行財政運営	1	出張所職員の休日出勤	14
計	21		

## 意見交換（要約）

### 《介護問題、防災》

**意見** しょっぱなというのはなかなか言いにくいんですけども、日ごろから実に高齢化社会に突入したのかなというのは実感しております。年をとってくると物忘れが激しくなる、体が弱くなる、ぼけも始まってくる。それをどう介護するか。介護施設は限られております。それを家族で見るのか。老老介護ということもありまして、これが大変悲惨な状況があちこちで生まれております。それを地域で支えるかというのと、これもやはり、よそのおばあちゃんをおれが面倒を見てやるんだということとはなかなか難しい。ましてや、震災後、「絆」という言葉がはやっておりますけれども、実際はもう家族の崩壊。親がいるのにかかわらず、子供はよそへ出ちゃうとか、仕事の関係でそういうことも仕方ないことでもありますが、親と一緒に住めないというので近くに出ちゃってとか、そういう事例もありますので、地域で高齢化社会をどうつくっていったらいいかなというのが悩みです。

それから、防災関係、関東大震災という事例もございますので、もしここに地震が起こった場合に地域でどのような対策をとればいいのか。また、市のほうではどんな対策をお持ちなのかということをお伺いしたいなと思って今日は参加しました。よろしくをお願いします。

**市長** 介護の問題については、これからどんどん高齢者の方が増えていく中で、費用的にも大変であるということで、国の方向性としては、なるべく地域の中で、あるいは親しい人の間で一定程度ケアをするという方向に動きつつあると思っています。もちろん介護が必要な状態になるべくならないように健康を保持する、そのために市民の皆さん、国民の皆さんが健康を維持できるような、そういう事業や運動も並行してやっていくという、そういう考えだと思っておりますが、市としても国の方針にのっとってやっているというのが現状であります。

働く人が少なくなって、高齢で体が十分に動かないような人が数多くなってしまった場合に、行政が支えるという、100%ケアをするというのは本当に難しい問題だと思います。したがって、国が考えているような方向性での介護というものをやっていくというのが市の考え方です。

それから、防災については、地域の対策ということで、今までそれぞれの地域で防災訓練をやっていたかと思っておりますけれども、昨年、東日本大震災、それから、十五、六年前の阪神・淡路大震災の経験を十分生かしたような訓練をこれから積

んでいくことによって災害に備えるという、そういう考え方でいくべきではないだろうかと思っています。私の考え方としては、今までやってきたような防災訓練だけではなくて、それぞれ参加している人が、倒壊家屋から中に閉じ込められた人を助けるという作業を実際にやってみるとか、消防がやって見せているようなことを、自分たちでそういう経験を積んでいくことが必要なのではないだろうかとはひそかに思っております。

例えば車には必ずジャッキが積んでありますよね。車のジャッキを使ったことのない人もいるだろうから、そのジャッキで、人の上に乗っかっているものを持ち上げる、そのジャッキの使い方であるとか、そういう道具類の使い方についても、これから地域の人たちには訓練の中でやってもらう必要があるのではないだろうかと考えておりまして、順次それを実現していこうと思っているところです。

本当に大規模な地震に襲われたときに、消防の手は到底全部の地域に行き届かない。家が倒れてしまえば道路が塞がれて消防が入れない、そういう中で、やはり隣近所の人が助け合っていくよりしようがないだろうという、そういう考えのもとに、今言ったような地域の方々に実際に助ける訓練とか、そういうことをやってもらう、それがこれから必要なことではないだろうかと考えています。

**福祉部長** 今年度から第5期の介護保険事業計画がスタートしております。今、国のほうで進めようとしているのは地域包括ケアシステムといいまして、やはり介護保険制度だけではなくて、高齢者のニーズに応じて、例えば住宅の問題ですとか、生活上の安心・安全ですとか、あるいは健康の確保ですとか、そういったものを総合的に地域で、医療分野やいろいろな資源が結びついてネットワークをつくってケアを進めていこうというのが基本的な考え方になります。

地域包括ケアを進める生活圏域というのがありますけれども、川越市の場合、従来6圏域だったものを、今回の計画から9圏域ということで、9つの生活圏域で進めていこうということで計画しております。その圏域の中に地域包括支援センターがそれぞれ設置されまして、そこを中心に進めていくというのが基本的な考えです。

あと一つは、地域福祉の考え方がありまして、地域福祉計画を川越市で定めております。それにあわせて社会福祉協議会でも地域福祉活動計画というものを定めております。地区社協を中心に、地域の中でいろいろなニーズに応じてサービスを自分たちで提供していこうという地区別福祉プランをつくっていただいております。

こういった地域福祉や、あるいは地域包括ケアという考え方の中で、地域の中で安心して暮らせるようなまちづくりをしていくという方向で今後進めていきたいと考

えております。

**総務部長** 市長からお話があったとおりでございまして、防災訓練が総合防災訓練という形で過去二十何年かやってきておりますけれども、より身近な対応がとれるような、そういった訓練の方向性も見据えながら、今年度から少し方向を変えた、例えば、避難所をつくって、皆さんが協力して避難所の生活を体験するようなことも踏まえた訓練を考えております。

また、地震等の大災害になりますと、命の問題がまず最初に出てくると思います。そのために避難所となる小中学校の耐震工事を順次進めておりまして、今年度中にはすべての小中学校の耐震化が終了するという状況でございまして、まずは命を守る避難所の確保、そういった部分についても今力を入れて鋭意進めているところでございます。

特に地震の場合にはおおむね3日間くらいを、何とか皆さんの力で、自助、共助という形で対応していただく必要が生じてくるだろうと言われております。そういった部分に対応するような備蓄品の整備も順次進めておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

#### 《水害時の避難所》

**意見** 防災訓練は、古谷では消防団の特別点検をやって、それで済ませていたんですけども、今年度には地域で身近な防災の訓練をしていきたい。地震の際にはまず水がとまっちゃう、それから、電気がとまるということが想定されますので、そういう中で煮炊きができる、農家が多いものですから、五升釜、三升釜がありますから、それで薪で飯を炊く、そういう訓練もやりたいし、本当に水がない中でトイレをどうするんだというのは震災地で随分起こったようですから、その辺の対策なども、具体的にできることを訓練でやってみたいなと思ひております。

高齢者についても、本当に寝たきりの方が多くなりまして、こういう方を防災のときにどういふふうに助け出すんだということも心配です。そしてここで聞かれるのは、我々が大水のときにどこに逃げればいいんだということ、平坦地ですからなかなか高層住宅も多くはございませぬ。また、古谷小学校は低いところにありますので、水が周りを取り囲んじゃって行けないという状況だつて洪水の際には出てくるという、その辺でどこに避難したらいいかなというのがちょっと考えているところです。

**市長** 大水のときの避難場所については、たしか川越市のつくったハザードマップですか、200年に一度の大洪水の場合は、多分、この辺は水が最大3メートルくらいかぶってしまう恐れがあるというところです。本当に大きな水害が予想されるときは、

例えば高いグリーンパークの建物とか、あるいはそうでなければ、旧市街地のほうに避難するよりしようがないのかなど。ただ、当面避難する場所としては学校が指定されていると思うのですが、それは通常の災害のときで、200年に一度くらいの水害が予想されるような場合はまた違った計画を立てておかなければならないのかなと思っています。

### 《夏休みに子どもが集まれる施設》

**意見** 夏など子供たちが集まれるような施設があればなど、PTAをやっていたときいつも思っていたんですけども、古谷ってそういうものが何もないんですね。長い夏休みなんかでも、違う市なんかへ行くと、そこへ集まると、本を読みながら、みんなの研究とか、そういうふうな調べものもできたり、ちょっとした遊びもできるような施設があったりしているんですが、南古谷にはできませんでしたよね。古谷はそういうのがおくれちゃっていて、何もないんですが、どのような状況になっているのかと思います。

**市長** 夏休みに子供が集まる場所ですか。

**意見** はい。集まれるような、ちょっと気楽に借りられるような、大勢の人間が集まって。

**市長** 今、夏休みは、特に登校日とかそういうのはないのですか。

**学校教育部長** 学校の登校日はあります。プール指導とかはありますけれども、毎日というわけではなくて、ある程度日は限られています。

**市長** 勉強ができるような場所ですか。

**意見** はい。夏休みだと暑いので、結局、家でクーラーがきいて、プール以外は家庭の中にずっと居っぱなしになっちゃうんですね。そういうとき、いつもどこかそういう場所があったらいいのになど。

**市長** それは子供たちが集まって遊んだり勉強したりできるようなところということですか。

**意見** はい。私たちが小さいとき、地域に公民館があって、そこで勉強会もできたりとか、あったんですけども、難しいですかね。

**市長** そうですか。多分この古谷地区に限らず、全市的に、例えば図書館等に行って勉強するとか、そういう子供たちはいるでしょうけれども、今のご要望のような場所は全市的に特にあるわけではないですよ、古谷地区だけではなくて。

**意見** ええ。でも、あるところもありますよね。狭山とかなんかにもあるんですけども、そうやって低学年の子供たちができるような。

**市長** どういう施設をイメージしたらいいでしょうか。

**意見** 児童館みたいな。

**意見** ああ、そうそう。というのは、本当に古谷の中でも黒須地区は公園もないんですよ。子供たちが集まる場所がなくて、遊べる場所が。

**市長** ご要望として承っておきます。特にそういうものに対応できる施設をつくる予定があるとか、そういうわけでもございませんが、要望ということで承らせていただきます。

**意見** 1カ月夏休みって、本当に小さい子、低学年というか、小学生のお母さんたちも、子供たちもいらいらしてきます。ずっと家の中でゲームをするしか、外は暑いし、みんなどのようにしているのかなと思いました。

**学校教育部長** 夏は教室の中にいるととても暑くて勉強にならないから夏休みがあるので、教室というわけにもいきませんし、学校に来たいと言われても、なかなかそういうのではないですよ、何か児童館みたいな。

**意見** 外へ遊びに行かすと熱中症になっちゃうでしょうし、地域的というか、そういう問題は出ていないですか。

**意見** 現役のPTAの方たちも来ていますけれども、そういう問題は上がってないのかなと思います。

**市民部長** 先週の木曜日に南古谷地区でタウンミーティングを開催しましたが、そのときやはり中学生の子供たちの放課後の遊び場がないということでご意見がありました。今度は小学生ということですが、そのときに地域の東部地域ふれあいセンターがありますよね。あそこの一室を月に1回でもいいから開放しようかということのを計画しています。今のご要望にも、もしこたえられるとすれば、既存の施設を活用するしかありませんので、この公民館を何日か開放するという事なども考えられますね。あとは学校でクーラーがきいている場所ですか。

**市長** 学校のクーラーは。

**学校教育部長** コンピュータ室や保健室などですね。

**市民部長** それは今、市長が言ったように検討課題とさせていただきます、申しわけありませんけれども、すぐに解決できないと思いますので。

#### 《通学路の歩道整備、図書館の設置、南古谷駅の北口開設》

**意見** 私からは、小学生が通う通学範囲が古谷の場合は本当に広くて、歩道が整備されてない場所が多いので、その辺をどう考えているのか。最近、車が小学生の列に突っ込んでしまう事故が多いので、古谷の場合は歩道がない場所がたくさんあって、ガ

ードレールもない、歩道もない、車の通行量は結構多い、そういうところが本当に多いので、その辺の対応はどのように考えているのかなということをもっと聞きたいなと思います。

それから、川越市の北側と東側には図書館がないなと思っているので、高階と伊勢原のほうには新しく図書館ができていますけれども、北側、東側のほうにはないなというのがありまして、もしそういうことを考えていただけたらなと思います。

それから、ちょっと無理という話は聞いたんですけれども、南古谷駅の北口をぜひつくっていただきたいなということです。それについてお考えをお聞かせ願いたいなと思います。

**市長** 通学路の問題は、今日、交通安全母の会でも言わせていただいたのですが、最近、小学生の列に車が突っ込むような重大な事故が関西のほうで続けて起こったということもあって、もちろんできる限り早く整備していかなければという、そういう気持ちはあります。なかなかそういう場所が多いということと、やはり道路拡幅、歩道をきちんとつけるためには時間と金がかかるということもありまして、もちろん整備も進めていきますけれども、早急にできることとして、例えばスクールゾーンを設定するであるとか、時間帯によって車を規制するとか、そういうような方法や、あるいは道路を色分けして、歩道と言わないまでも、グリーンベルトというんですか、そういうものをつくるとか、そういう形で当面は対応していかなければならない部分は多いであろうという、そういう状況ですね。

特にこの古谷地区に関しては、前からご要望いただいている、JRのトンネル、アンダーパスの部分が極めて狭くて、しかも交通量が多くて、何とかしてほしいというご要望をもう2年くらい前にいただいているのですが、早急にはなかなか対応できない状況ですが、確かに車同士もすれ違えないような幅で、そういうところを車が多い時間帯に子供が通るといのは、何らかの対応を早急にしなければということは考えています。

それと図書館が欲しいというのは、それはご要望として伺わせておいていただきます。

あと南古谷駅の北口については、今、新河岸駅周辺の整備を急いでおりまして、それがこの三、四年のうちには目途がつくだろうと思っていますが、それが終わりましたら、次は南古谷駅という、そういう順番で考えていまして、今年は調査費用ということで予算をつけました。こちら南古谷駅のほうもなるべく早く整備をしたいという、そういう気持ちは持っていますし、具体的な日程も考えていますので、そう遠か



らず、北側にも降りられて、駅前広場があるという、そういう駅にすることはできると思います。

### 《水道水の安全性》

**意見** 知識として知りたいんですけれども、先般、利根川流域で給水停止というのがありました。川越については例えば取水箇所は何カ所、どこからどのくらいあるのか。それといわゆる危険物製造所等々の恐れというものはないのかというのを知りたかったものですから。

**市長** 私の記憶に間違いがなければ、川越の水道は、9割は県から買っております。県の水はどこからくるかというところ秋ヶ瀬のところで取水しているはずですよ。大部分は荒川の水です。もちろん荒川には利根川から引いてきた水も流れ込んでおりますが、荒川がメインの水源になっているはず。あと残りの1割は市内の井戸からくみ上げた水を使っているという状況です。

危険物を扱うような、そういう工場や施設がどのくらいあるのか、ちょっとそれは頭の中にはないのですが、今回の水道の水源の問題は、川越にきている県の水は荒川水系が中心であるということで、全く問題はない、そういう状況です。

### 《旧古谷東小学校の地元開放》

**意見** 平成21年、22年に市長さんのほうへ東小学校の開放のお願いを出して、その返事は終わっているわけですが、その間、22年度に教育センターと最後の打ち合わせのときに、3つの部屋は開放してあるんですが、その裏の部屋の開放をお願いしたい。古谷地区の各種団体の全員で土曜でも日曜でもいつでも使える自由の部屋としてかぎをお預かりしたいということでお願いしたのですが、かぎはお渡しすると会則を変えなくてはいけないので、それは無理だと何回も言われたんです。

先ほどから、子供の遊ぶ場所がないとか、集まる場所がないとかと言ったときに、だれでも使える、特に公民館は祭日休み、出張所は土日休みということで、ここも使えないときに自由に使える部屋が欲しい。今日おいでの方では聞いてないかと思うんですが、いろいろな部長さんに当時お話をしたんですが、それきりになっているんです。それで教育センターの所長さんは私のところへ何回も無理だというお返事はいただいたんですけれども、その辺が市民の集まる自由な部屋、先ほど子供さんが集まるとかありましたね。隣に図書館もあるし、いろいろな設備もあるので、各種団体全員で使いたいんだというお願いをしてきたんですが、それは条件があると、1年間に300回以上の使用計画を出せばかぎを貸せる。初めから1年間に300回の会合の計画は立てられない。徐々に立てて、行く行くはそのようにするつもりだということで、前

の支会長さんと私はしつこくやってきたんですが、結局だめでもうやむやになって、多分市長さんの耳には入ってないのではないかと思います、その辺がふれあいセンター的な場所にも使えるのではないかなと思って当時は企画したんですが、その辺どんなものでしょうか。

**市長** 古谷東小の跡地については、廃校になる前から地元の皆さんといろいろ話し合いをしながら、廃校になったときにどう使っていくのか、地元の人にどう開放するかということについて、基本的に話がついて、校舎の1階部分は主に地元の人、2階以上は教育センターが入る、そういう形になったという、その辺までしか聞いてないのですが。

**意見** その奥に入った、奥の部屋が、この前、3.11のときに御存じのように、茨城から来た方が仮住まいしていた。

**市長** 一時避難所に使われましたね。

**意見** 外部から入れる、かぎを管理できる。我々の各種団体の中に責任者を定めてお借りしようとしたんですが、結局だめだということでもうやむやになってそれきりになった。その辺を有効利用すれば、子供さんの問題も、いろいろな祭日の会合においても、ここの公民館が使えない場合においても、我々は夜間でもできるという希望があったんです。何かその辺を今後考えていただくことはできないでしょうか。

**市長** そういうご要望があるということを知りましたので、それについては持ち帰って検討させていただいて、お返事します。

#### 《伊佐沼東側道路の歩道整備、伊佐沼公園、伊佐沼の護岸》

**意見** 伊佐沼のすぐ東側に住んでおりますけれども、今、保全組合で沼の整備だとか、いろいろ草刈りとか毎年やったり、私も「伊佐沼の蓮を咲かそう会」という会を10年だったと思いますけれども、最初は三十何人くらいで沼をとにかくきれいにして花を咲かそうということで始まったのが、今は大勢の人たちに参加をいただいて、掃除をしたり草を刈ったり、缶拾いをしたりいろいろやっております。

今度木道の橋がかかって、最初に橋ができるという話を聞いたときは、橋がTの字にできるという話を聞いたんです。そしてどうしてL型になったのかという話で、これは本当かどうかわかりませんが、北側と西側、南側には柵がついた歩道があるものですから、車いすだとか子供さんなんかも、車との接触を避けることができるということだったんです。しかし、東側に歩道がないものですから、もし橋をTの字にしたときに、橋を渡って東側に出たときに、車いすの方だと急に停止をしたりということはできませんので、まして歩道の舗装道路というのは真ん中が高くて、端が低

いものですから、橋から出るときはかえって勢いがついてしまうので危ないということで、L型になって、東側には橋が繋がらなかったということを知りました。

東側に歩道がないというのが、近所の自治会、字の子供たち、いろいろ通行する農家の人たちなんかもそうだと思いますけれども、非常に不便で、危なくてという、ましてこのところで沼に水が入ってきて釣りの方が多くなってきますと、せっかく広い駐車場があっても、その駐車場にとめずに、自分が釣りをしているすぐ後ろ側に、沼の端にずっと東側に車をとめちゃいますので、そこを車がすれ違って通らなければいけないので、すれ違えないで結構トラブルを起こしております。その歩道と、舗装も非常に悪いんですね、傷んでいるんです。それなんかもちょっと見ていただくというか、そういう歩道をつくっていただいたり、あと道路舗装を直してほしい。

あと伊佐沼があそこが公園になるというので、説明会は私たち子供のころから何回か聞いているんです。今その状況がどんなふうなのか。計画が幾らかでも進んでいるのかどうか。まず、歩道なんかはお考えいただければということが一番あれなんですけれども、よろしくお願いします。

**市長** まず、東側の道路のことですけれども、1点目、当初、橋がTの字でかかるという予定が何故かぎ型になってしまったのか、それは私も聞いてないです。確かに最初の計画ではT字型に橋がかかるような、そういう図面を見た記憶はあります。ただ、あれは県が中心になってやっている事業なので、もちろん市も費用は負担しますが、事業そのものは県が中心になってやっているの、その辺のところは、変更になりましたという報告を受けた記憶がないのでわかりません。

東側の道路を整備してほしいという要望は、何カ月か前に、支会長さんを初め古谷地区の皆様何人かでご要望をいただきまして、確かに道路そのものの路面も大分傷んでいることもあって、なるべく早く、歩いて感じのいいような、そういう道路に整備したいと考えていますので、ご理解いただきたいと思います。

それともう1点は公園の話ですが、伊佐沼公園の計画は10年くらい前につくったのではないかと思うのですが、わかりますか、いつごろつくったのか。

**建設部長** そうですね、10年以上ですかね、幾つか段階を踏んでつくっていたのではないかと思います。計画書としてでき上がったのは、私の記憶では確かに平成13年ごろと聞いております。

**市長** 確かに、沼の東側と西側に木を植えたり、いろいろ公園らしく整備するという、そういう計画をつくって地元の人にもご説明したと思いますが、その後、実際にはほとんど手がつかないままきってしまったわけですね。一部駐車場をつくったと思います

が、そのくらいしか事業が進展してない。そこで、このままではいろいろ経費等を考えて、十何年前につくった計画のままつくるということが困難であろうということで、計画を見直しているところなのです。なるべくお金のかからない方法で範囲を縮小してやっていこうという、そういう考えで計画を見直しているところです。

**意見** 沼の東側の道路ですけれども、東側は護岸が全然何もしてないんですよ。ですから、舗装をやっても、あそこを、荷を積んだ4トン車くらいのトラックが結構通りますので、その通る重みで沼のほうにいっちゃうので、舗装にひびが入ってあのようになっちゃうと思うんですね。だから、桜の木の根が張っている部分はいいんですけれども、だから桜の根のもとまで土が崩れちゃっているところが多いと思うんですね。役所の専門の方がごらんになれば、どうしてあそこの道路があんなに舗装が傷むのかはわかると思います。やはりそんなところから、くいを打つだけでも違うのかなと思うことがあります。とにかく子供なんか小さな自転車であそこを歩くのは、東側のほうは走っているときはいいんですけれども、沼側のほうを走るときはもう舗装のひびが大きくて本当に危ないんですね。ですから、そんなところも、せっかくの橋ができて、蓮も芽が出てきましたし、今年は蓮の花もきれいな花が見られると思いますので、よろしくお願いします。

#### 《通学路の安全対策》

**意見** 通学路の整備の話に戻りますが、先ほど古谷本郷のアンダーパスの話が出ていました。グリーンフィールドができましたので、あちらから通ってくる子供たちが非常に多いので、あそこを通る子供が多いんですけれども、あそこから、前の交番のところまで来る古谷本郷の通りというのは、もちろん歩道もないですし、柵もガードレールではなくて、門型の柵が飛び飛びにあるだけで非常に危ないので、そこを何とかしてもらいたいんです。今すぐ全部というわけにはいかないと思うんですけれども、今現在で何をしてもらえるか、要は進捗状況ですね、どの程度の話まで進んでいるのか知りたいのですけれども、よろしくお願いします。

**建設部長** まず、古谷本郷のJRのガード下の件でございますが、たしか平成22年度に地元の皆様方からご要望をいただきまして、その後、市長から早急に検討するように指示をいただきまして、昨年度、23年度にJR東日本と協議をさせていただきました。その中で改善案が複数案ございまして、まだまだ煮詰まっていない状況でございますが、できれば今年度中にJRと具体的にこういった構造で安全確保を図ったらどうかという、具体的な案を詰めていこうと考えております。当然、それを決めるに当たりましては、地元の皆様方のご意見を拝聴しながらでなければ決められません

し、また実現に当たっては地元の議員の皆様方のご協力等もいただかなければなかなか進むものではございませんが、今年度中に方針を決めていきたいと考えております。その辺の測量費や設計費の予算を計上してございます。

それから、通学路の柵等の話でございますが、現在川越市では道路拡幅の要望が市内全域で400件ほどございまして、皆様方のお声に応えたいのですが、なかなかお応えし切れないというのが実情でございます。しかしながら、道路拡幅は時間もかかりますし、財源もそれなりに入り用でございますが、一方で、お子様方の安全確保は待ったなしでございますので、まずは道路拡幅というよりは、今ある道路の幅員の中でどういう工夫ができるのかということを検討しながら、改善策を講じているところでございます。

当古谷地区の通学路につきましても、その道路、あるいは沿道のお宅の張りつきぐあい等、いろいろ場所によって個性がございます。その場所に合った改善策というものがございまして、具体的にこうやりますということはなかなか一言では言い切れませんが、ご指摘いただきました路線について、どういった安全策が最も有効なのか、その辺はまた手前どもで検討させていただきたいと思っております。

#### 《新斎場》

**意見** 火葬場の件ですけれども、私の地区で該当地権者がいるもので、本人たちは賛成なんです。それで私もちょくちょく役所のほうを訪問して、きょう建屋のレイアウトですか、その辺まで確認はしてきたんです。そこまではいいんですけれども、斎場に対して契約されている部分がはす型みたいになっていますよね。その辺のことはどう考えているのですか。将来的にそこまで広げるとか。

**市長** 当初の予定地から外れた土地は、もともと斎場の駐車場や緑地として考えていた場所なので、そこを入れなくても建屋のほうには影響はないです。縮小した計画ではありますが、当初の計画と同じ規模の斎場をつくる予定です。当面はやすらぎのさとと駐車場を兼用にして、もちろん斎場のほうにも一定程度の広さの駐車場は取ります。その他の部分については、今後いろいろ協議を重ねながら、協力してもらえらるものであれば、当初の予定のような駐車場を確保したいという、そういう見通しで進めているところです。

#### 《命についての教育》

**意見** 東中学校のPTAをやらせていただいております。地域の皆様方にはいろいろとご心配をおかけいたしまして、大変申しわけありませんでしたとともに、たくさんお気遣いをいただきましてありがとうございます。この場でお礼を言わせていただ

きます。

そのことなんですけれども、実際、私が聞いた話ですが、東中の子供たちは1年生が社会チャレンジといって、各企業さんとか会社、幼稚園、学校とかに子供たちが行って2日間実際に社会体験をする科目があるんですね。その中で、消防署に行った子供たちの中で、何年か前の話なんですけれども、消防署の方が、「死んだら人間はどうなると思う」という質問をしたときに、「リセットできる」という発言をした子供さんがいたんですね。記憶が間違っていなければ、リセットするんだということで、高いところから飛び降りた生徒さんが何年か前にいたような記憶がちょっとあるんですけれども、命についての授業と申しますか、そういうのは学校のほうで今後もっと突っ込んだような形でされるような予定はあるのかということと、当然、命に関することは私たち保護者もきちんと子供たちに真正面から教えていかなければ、しつけていかなければいけないことの1つだと思うんですけれども、学校教育の中でも、保護者と同時にあわせて、命というもの、生まれてきたということに対しての教育、理解を、親も含めてそういった方向での考えというのは教育委員会等ではあるのかどうかちょっとお伺いしたいのですけれども。

**学校教育部長** 命にかかわるところというのは、道徳教育の根幹にかかわるところで、生命尊重、生命に関する畏敬の念ということで、道徳の項目の主として自分自身にかかわるところでまず第一に学んでいくところでございます。道徳の教育というのは道徳の授業だけではなくて、教育活動全般で行うということで、最も基本的なことだと思います。

ご指摘のようなことについては、発達段階の小学1年生から2年生、3年生、中学生とありますけれども、具体的な場面を持ち出したり、あるいは心に、琴線に触れる道徳の教材を用いての指導や、あるいは具体的な教育活動の中でそれぞれの場面で厳しく教える、あるいはそれぞれの子供に指導していかなければいけないのは当然のことだと思います。ただ、常日ごろから心を耕すような生徒理解に基づいた教育活動も進めていかなければいけないわけなので、そうした部分も含めて今やっております。

東中については、今年県の教育委員会のご協力をいただきまして、生徒指導の重点的な加配という形で、1名の先生を、余裕を持って教育活動に取り組むようにということで配備していただいています。あと生徒指導の対応関係で、それぞれのいろいろな部分でアシストしてくれる方を2名、警察のほうからご協力いただく等の側面の応援と、具体的な場面に応じては、この間も保護者会に教育委員会も参加させていただいていますけれども、まずは子供と先生が協力し合ってやっていく中で、一生懸命頑

張っていくのはいいなという思いを、子供たちが味わってくれるとありがたいと思って期待しています。

### 「テーマ：出張所と公民館に求めることについて」

#### 《出張所職員の休日出勤》

**意見** 出張所と公民館には大変お世話になって、いろいろとやっていただいているわけですが、特に出張所においては、職務規程その他で、残業も日曜日も職務規程がなく、所長さんがサービス精神で全部やっていただいている。ほかの職員は所長さんであっても使うわけにはいかない。古谷の行事も日曜、祭日とか、そういう休みの日、土曜日とかも結構あるんですが、所長さんだけに迷惑をかけていて、ほかの職員さんは所長権限で要請はできないというお話を聞いておりますが、それをやるには職務規程を変えるとか、手当も大分増えるので財政に厳しいのかなと思うんですが、高階の公民館と両方で併設になったような施設に変えていくということがありましたけれども、それも私の言っていることの一環になるのかなという気がしたので、そうなればいいなと思っておりますが、どうでしょうか。

**市長** 今、市民センターが2つ既にできていて、もう1つをつくりつつあるのですが、市民センターの考え方というのは、公民館と出張所の仕事を融合させるという、そういう考えのもとにやっているのですが、現実問題として縦割り行政が変わってなくて、部が違うということでお互いがお互いの仕事に手を出さないというか、出せないのか、1つ屋根の下に入っただけというのが現状もあります。それをうまく融合させて、部の垣根を取り払ってやっていくことによって、今おっしゃったような問題が解決するのかというと、決してそうではないと私は思うのです。

今のおっしゃった問題を解決するにはどうしたらいいのか、なかなか難しい問題ですけれども、規則どおりきちんとやるとなると、それは残業をしたら、必ず残業手当を払わなければならない。それから、管理職の場合は残業手当はないから、代休を与えるというような形で、一種の合理化ですよね。合理化というのは、規則にできる限り忠実な勤務形態にするということになっていくのかなと。ただ、そうすると、地域の住民の皆さんと一番接する部署がまさにお役所的になって、今日は残業したくないから、皆さんとおつき合するわけにはまいりませんか、代休がとれると言って休んでしまうと、今度は通常の仕事が終わらなくなってしまうから、休日に皆さんにおつき合するというのは難しいというようなことになりかねない、そういう心配もあると思うのです。なかなか難しい問題だと思います。余り規則を意識しない状態で、

あうんの呼吸でやっているのがいいのか、規則にできる限り従ってやっていくのがいいのか、その辺の選択になってしまうかなとも思いますが、今おっしゃられた問題の解決は難しい面があるような気がしますね。

## 《地域福祉》

**意見** 福祉部長が先ほど地域の福祉プランを立てて支援をしていくんだ、そういうふうな方向を言われましたけれども、実際、地域包括センターというのは老人ホームをやっているところがセンター機能を果たしているわけですよ。ここの地域の問題として投げかけるということと、市もかかわってやっていくんだということ、今の話がもうちょっとかかわりがあっていいような気がするんです。そこまでいくとかなり難しいのだろうと思うんですけれども、業務的に出張所業務、公民館業務、それから、福祉の業務と、これらが一体的になっていかないと、言葉だけでこういうふうにしましようやと言ってもなかなか難しいかなという気がします。やはり一方的に、「はい、やって」という形ではどうしても前には進まないような時代になっているというふうに思います。

### 「テーマ：市民が望む災害対策について」

**市長** 先ほどの防災の関係の話の補足というか、2年くらい前に神戸の市長の講演を聞く機会がありました。そのときの神戸の市長のお話では、これはデータとしても出ていますが、阪神・淡路大震災のときに倒壊した家屋の中から救われた人のうちの7割は隣近所の人助け出した、消防、警察が助け出したのは3割くらいだった、ということが事実のようです。

そのように、大きい地震のときは、あちこちで瓦れきの下に埋もれてしまった、倒壊した家屋の中に取り残されてしまった、そういうケースが極めていっぱい出てきますから、本当に消防の力、警察の力では到底手が回らない状況が想定されます。そういうときにやはり隣近所の皆さんが何らかの形で力を合わせて助け出すという、そういうことをやらざるを得ないのはもう見えているのだから、今のうちにジャッキの使い方であるとか、いろいろな工具の使い方を防災訓練の中に入れておく必要があるだろうなと思っているわけです。神戸の市長さんも、阪神・淡路大震災の後、50戸に1つくらい、いろいろなバールであるとかスコップであるとか、ジャッキであるとか、いざというときに使うような、そういう品物を備蓄させて、防災班みたいなところが中心になって、いざというときに活動するという、そういうような仕組みをつくったということを書いていました。



川越でも、そういう形で皆さんに、農家の方はいろいろ工具を持っている、あるいは工務店さんはそれこそ重機だって持っていますので、そういうものも、いざというときにはお借りしなければならないと思いますが、基本的にサラリーマン家庭にはないような道具を、一定程度分散して備蓄するような、そういう形もとっていきべきだろうかということも考えています。そういう中でぜひ消防団の人などが中心になって、実際に実践的な防災訓練をこれからやってもらいたいと思っております、そういう話を、具体的に指示を出したいと私は思っています。

### 《総合防災訓練》

**意見** 川越市では、総合防災訓練を、地区ごとというか、年に1回やっているんですね。消防団も何回か出たことがあるんですけども、古谷地区ではまだやってないと思うんです。いつ災害がくるかわからない状態で、その訓練をやっている地区とやってない地区では対応の仕方が変わると思うんです。川越市でやっている総合防災訓練というのをもうちょっと多めにできないものかと思うんですが。

**市長** 私の記憶が正しければ、総合防災訓練は2年に一遍ではなかったかと思うのですが、机上訓練をやる年と実際に皆さんに協力してもらってやる年と、そういう形でやっているから2年に一遍になっているのですよね。回数を増やすことも、もちろん考えますし、さっき言ったように、訓練の内容も、今までは大部分が、消防がやっているのを見る、それから、避難訓練はみんなでそろって避難場所に移動するとか、そういう訓練は確かにやりますけれども、もっと実践的な訓練をやらなければしょうがないだろと思っておりますので、今後そういう改善は加えていきます。

**総務部長** 古谷はやってないというお話だったのですが、もうかなり前になるかと思っております。川越市で総合防災訓練を始めましたのが昭和55年から開催しております、何年前というところまでは覚えてないのですが、古谷小学校で過去に総合防災訓練を実施した実績がございます。市内の各区域、それから、本庁管内でも地域を分けまして、概ね全ての地区で総合防災訓練という形では実施をさせていただいて、場所によっては2回目という地域もあると思っております。

**意見** 何年か前に地域の運動会の際にやってもらいました。

**意見** その件について、芳野で4年くらい前にやったんですが、古谷はなぜ来ないんだとある人に聞いたんですが、全体的にやると、テントを張ったり何かして、グラウンドが狭いから、古谷は輪番で回ってこないで抜かされているんだと聞いていたんです。

**市長** それはないと思っておりますが、市の総合防災訓練でなくても、地区ごとにやってい

る場所もありますよね。そういうところに呼ばれて行った記憶があるのですが、それぞれの地区で工夫をしているのを見させてもらいましたが、某所でバケツリレーをやっていたのですが、バケツを持って一定程度移動して、要するに人の間隔が長過ぎるものだから、持って動かなければならないという、これではバケツリレーになってないなと思った記憶があるのですが、バケツリレーもきちんとできるように練習しておかなければならないと思うのです。ちょっと話は余談ですけども。

#### 《災害備蓄庫》

**意見** 古谷小学校に備蓄品室ってあるじゃないですか。それが4階にたしかあると思うんですけども、あれは想定外の災害がきた場合に、4階とかで大丈夫なのかなと思ったんですけども。

**市長** 4階になぜあるのかどうか、たまたまその部屋があいているからなのかわかりませんが、ちょっと検討してみます。高いところに置いたというのは、地震ではなくて水害を想定しておいたのかなという気もします。それは確認して、備蓄場所、方法に問題があれば変えます。

#### 《備蓄品の点検、地域の防災訓練》

**意見** ちょっと関連してですけども、去年の消防特別点検の際に、備蓄庫のほうも点検させてもらいましたら、古い備品がそのままになっていた。だから、そのままの状態ではいざというときに使えないなというのを指摘させてもらったんですけども、点検をしていただきたいという要望を出させていただきました。

それから、今年の消防特別点検に合わせて、地域の防災訓練をやっていききたい。そのために消防団もぜひその協議にかかわっていただきたいというふうに思っております。よろしくをお願いします。

**市長** 地域の防災訓練のときは消防のほうに早めに言っていただければ、手助けできると思います。

本日は大変貴重な、有意義なご意見を多数出していただきまして、ありがとうございます。特にやはりどこの地区でも子供の通学路の問題と、それから、昨年大地震があったという関係でしようけれども、防災の問題は、いろいろご要望やご質問などたくさんいただいております。市としてもできる限り対応していきたいと考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。